

平成28年度 佐久長聖中学校 学校関係者評価

評価 A：十分できている B：概ね十分できている C：普通である D：不十分なところがある E：ほとんどできていない

分野	評価項目	評価の観点	評価	内容
学習指導	授業内容の充実	1 授業評価を適宜行い、その内容を踏まえて授業の方法を工夫・改善して、生徒の学ぶ意欲を喚起しているか。	B	・教師の自己満足に陥らないように授業評価を行い、わかりやすい授業を心がけ、授業の工夫を常にしてほしい。 ・画像や動画の精選と学習プリントとの連携などをいっそう図ってほしい。
	教科指導力の向上	2 研究授業のほかに教員相互の授業参観や相互批評をしているか。アクティブラーニングの手法を試みているか。	C	・学習の定着において弱い部分があれば、教科を越えた相互批評の研修機会を増やすなどして、改善を図ってほしい。
		3 各種の模試・検定などの客観的データを教科会や各自で分析し、生徒の学力に応じた授業を行っているか。	B	・粘り強く指導していくことが重要だ。 ・模試結果を分析し、学力向上に繋がるよう努めてほしい。
	学習習慣の確立と自主的な学びへの導き	4 (学級担任として) 生徒の学習状況・学習時間を把握し、面接によって個々に即した適切な助言をしているか。	B	・同じ反省を繰り返す生徒に対して取り組み方や意識が変わるような助言を期待する。
		5 (教科担当として) 学力や時期に応じて質的・量的に適切な課題を出して、日々の学習や計画的学習を促しているか。	B	・生徒の実態に合った課題の選定を研究してほしい。 ・家庭学習の時間を持たせるよう促してほしい。
		6 生徒が自主的に取り組んだり探求したりする力をつけるための課題や学びの機会を、工夫して提供しているか。	C	・成功事例を教員間で情報共有できることが望ましい。 ・個々への声かけを欠かさないこと。
進路指導	希望進路の実現	7 学級担任・教科担当として6年間を見通した指導をしているか。学年会・教科会がそのために機能しているか。	B	・自分の考えを文字にすること。またその添削指導をすること。 ・高校との連絡をより密にする必要がある。
進路指導	新しい時代を展望できる進路指導	8 社会への視野を広げ、自分の人生の目標を考える機会としてのキャリア教育を、計画し、実施しているか。	B	・配布物やクラスの掲示などで大学や職業の情報を提供する機会を増やしてほしい。 ・様々な人の話を聞く機会を計画してほしい。
生活指導	自律的生活の育成	9 服装・挨拶など生徒の自律的取り組みを促しているか。モラルや思いやりにつながる、心の指導をしているか。	B	・自律的な取り組みは難しいが、モラルや思いやりにつながる心の指導は引き続きすべての教育場面で行っていく必要がある。
	生徒相談といじめの発見・対処	10 担任・学年・部活顧問・館職員・生徒指導係等が連携を取りながら、適切に生徒相談に当たっているか。	B	・学校で起きた事案、学年で対応した事案、生徒寮でのことがそれぞれ情報共有できるよう努めてほしい。
		11 現在の「いじめ」の定義に基づいていじめを認知し、職員間で情報を共有して適切に対応しているか。	B	・生徒の言動に注意して未然に防げるようにすること。 ・日常的な衝突といじめの区別について生徒の実態を踏まえて判断し、対応してほしい。
	安心・安全を守る指導、安全を考えさせる指導	12 校内の安全点検や日常の目配りを重視し、事故や危険を防止できているか。	B	・危険防止の意識を持って取り組んでほしい。 ・常に校内の様子に気を配り、異常を見過ごさないようにする。
13 校外での交通安全や防犯(インターネットによるトラブルの回避も含む)についての指導をしているか。		B	・自転車や列車のマナーや安全の指導は継続的に行ってほしい。 ・ネットトラブルに対する意識を高めるために継続的な指導と情報提供をしてほしい。	
開かれた学校づくり	開かれた学校づくり	14 保護者や地域の方の意見・要望をくみとり、必要なことには、すばやく、的確に対応しているか。	B	・生徒のために対処すべきことには最優先して取り組む。保護者の方とのコミュニケーションを日常的なものにしていくことが重要。 ・クラス通信にはクラスによるバラツキが出ないように努めてほしい。
		15 電子媒体や紙媒体を通して、各種の情報を生徒・保護者や一般に向けて、定期的に提供しているか。	B	・定期的な情報発信に努めてほしい。・館の様子ももっと発信したい。 ・通信類は余裕を持って発行したい。
		16 地域の方や校外の団体等と交流できる機会を、生徒に提供しているか。学校として交流に寄与しているか。	C	・地元以外の遠方の生徒が多いため、地域との交流という意識を持たせる工夫をしていくことが必要。 ・聖華祭を地域との交流の機会として考えたい。